

# 珠洲市立小中学校の耐震化状況について

内容現在：平成28年4月1日現在

## 1. 趣旨

学校施設は、児童生徒等が一日の大半を過ごす活動の場であり、非常災害時には地域住民の応急避難場所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要です。

学校施設の耐震化は、国・県を挙げての急務とされており、珠洲市でも、公立学校の耐震化に積極的に取り組んでいく必要があります。

珠洲市教育委員会は、自ら管理する公立学校施設について、広く情報を公開し、市民の皆様には学校施設の耐震化の重要性を御認識いただきながら、耐震化の取組をこれまで以上に進めていきたいと考えています。

公立学校は、基本的にすべての建築物について耐震診断等が行われていますので、その結果を公表します。

## 2. 珠洲市立小中学校の耐震化率

区 分	学 校 数	学校数 のうち 全棟数	校 舎 棟 (棟数)			屋 内 運 動 場 (棟数)		
			耐震性あり	要改修	計	耐震性あり	要改修	計
小 学 校	9 校	18 棟	10 棟	0 棟	10 棟	8 棟	0 棟	8 棟
中 学 校	4 校	9 棟	6 棟	0 棟	6 棟	3 棟	0 棟	3 棟
計	13 校	27 棟	16 棟	0 棟	16 棟	11 棟	0 棟	11 棟

### 〈用語の解説〉

- 「構造」欄の「RC」とは鉄筋コンクリート造、「RS」とは鉄骨鉄筋コンクリート造、「S」とは鉄骨造をいいます。
- 「耐震基準区分」欄の「旧基準」とは昭和56年以前に旧耐震基準で建築されたものをいい、「新基準」とは昭和57年以降に新耐震基準で建築されたものをいいます。
- (1) 「新基準」の建物は耐震性がありますので、「未診断」欄から右の各欄の色を変えてあります。  
(2) 「旧基準」と表示のあるもののうち、診断が行われたものについて、未改修のものは「優先度調査」、「第1次診断」、「第2次診断」のデータを、改修済のものは「改修後」のデータを掲げてあります。
- (1) 「優先度調査」とは、耐震診断又は耐力度調査を実施する優先度を検討することを目的としており、コンクリート強度、老朽化、プラン、耐震壁の配置、想定震度により優先度ランクを判断する方法です。  
(ランク①～⑤の五段階評価)  
「優先度調査」を実施した年度を「年度」欄に、優先度ランクを「ランク」欄に掲げてあります。  
(3) 「耐力度調査」は、建物の骨組みが危険な状態にある建物の危険な状態の度合いを耐力度で表示し、構造耐力、保存度及び外力条件を測定します。  
(4) 「第1次診断」は、設計図書で壁及び柱断面積のコンクリート強度のみを用いて耐震性能を判定する診断方法です。  
(5) 「第2次診断」は、柱・壁の破壊するまでの強度（終局強度）を算出し、鉄筋及びコンクリート強度を判断する診断方法です。  
「第2次診断」を実施した年度を「年度」並びに「Is値」、「CT×ST値」又は「q値」（後述）をそれぞれの欄に掲げてあります。
- (1) 「Is値」（構造耐震指標）とは、建築物の地震に対する安全性を数値化したもので、値が大きいほど耐震性能が高いことを示します。  
(2) 「CT×SD値」とは、CT（累積強度指標）とSD（形状指標）をかけた値で、この値が低ければIs値が高くても安全とはいえません。  
(3) 「q値」（保有水平耐力に係る指標）とは、地震による水平方向の力に対して建物が対応する強さを示すもので、その値が大きいほどよく、1.0以上が目標値とされています。

